

教科目名		教科目担当者	授業方法	単位数	履修時間
とちぎのいちご各論		非常勤講師 石原 良行 農政部職員、農業大 学校職員 他	講 義	4 単位	6 0 時間
必修学科	農業経営学部 いちご学科（1年）				
選択推奨学科					
授業のねらい					
いちごの生産動向や産地の変遷、生産技術の発展経過、経営的特性、作物的特性等について理解するとともに、いちごの生理生態に基づいた栽培管理技術などについて総合的に学ぶ。					
授業計画					
1 いちご生産の現状 （1）需要と生産の動向 （2）経営上の特性 （3）無病苗供給体制 （4）知的財産権					
2 いちご生産の変遷 （1）産地形成期 （2）促成栽培への移行期 （3）新技術と新品種					
3 いちごの生理生態と栽培管理 （1）各器官の性状形態 （2）生育ステージ別の生理生態と技術概要 （3）果実品質 （4）促成栽培 （5）生産を高めるための留意点					
4 作型と品種別管理技術 （1）とちおとめ （2）スカイベリー （3）とちあいか 他					
5 高設栽培技術 （1）特徴と経営特性 （2）栽培システムと環境 （3）栽培管理 （4）課題と対策					
テキスト	イチゴづくりの基礎と実際				
参考文献					
評価方法	レポート（理解度、解析度、考察力）、ディスカッション（積極性、理解度、考察力）等				

教 科 目 名		教 科 目 担 当 者	授 業 方 法	単 位 数	履 修 時 間
農 場 管 理 実 習		農 業 大 学 校 職 員	実 習	2 単 位	9 0 時 間
必 修 学 科	農業経営学部 いちご学科（１・２年）				
選 択 推 奨 学 科					
授 業 の ね ら い					
いちご促成栽培に関する技術全般について継続的に実習する。					
授 業 計 画					
1 栽培管理 （１）親株管理 （２）育苗管理 （３）定植準備及び定植 （４）本ぼにおける肥培管理 （５）作物観察					
テキスト					
参考文献					
評価方法	出席状況、作業精度、作物及び施設に対する観察力				

教科目名		教科目担当者	授業方法	単位数	履修時間
専門実習		農業大学校職員	実 習	① 5 単位 ② 5 単位	① 2 2 5 時間 ② 2 2 5 時間
必修学科	農業経営学部 いちご学科（1 年）				
選択推奨学科					
授業のねらい					
いちご促成栽培の基礎及び選別調整技術等を修得する。本県育成の主要品種について、品種特性を踏まえた栽培管理技術を習得する。併せて、生産物の選別調整方法や主な農作業機械の操作・施設のメンテナンス方法等について学習する。					
授業計画					
1 専門実習①（前期）					
（1）栽培管理					
ア 子苗増殖：空中採苗、プランター受け					
イ 育苗管理：採苗、施肥・灌水、下葉整理、花芽分化促進（夜冷処理等）					
ウ 定植準備・定植：施肥・畝上げ、土壌消毒、定植（土耕栽培・高設栽培）、灌水管理、培養液の調整					
（2）病虫害防除					
ア 子苗増殖時及び育苗管理時の主要病虫害対策					
（3）農業機械操作					
トラクター、運搬車、動力噴霧機、刈払機、畝上機などの機械操作					
（4）栽培施設保守					
ア 被覆資材の更新					
イ 軽微な修繕					
2 専門実習②（後期）					
（1）栽培管理					
ア 保温及び加温：マルチ被覆、暖房機ダクトの設置、温湿度管理、制御装置点検					
イ 収穫、本ば管理：下葉・腋芽整理、施肥灌水制御、ミツバチ放飼					
ウ 収穫・選別調整：収穫熟度、出荷規格、商品づくり					
（2）病虫害防除					
ア 本ばにおける主要病虫害対策					
（3）農業機械操作					
トラクター、運搬車、動力噴霧機、刈払機、畝上機などの機械操作					
（4）栽培施設保守					
ア 被覆資材の更新					
イ 灌水装置、暖房機等の保守					
ウ 軽微な修繕、資材加工					
（5）農産加工					
テキスト					
参考文献					
評価方法	出席状況、作業精度、知識・技能の習得状況、実習態度、				

教科目名		教科目担当者	授業方法	単位数	履修時間
現地実習		先進的経営体 農業大学校職員	実 習	① 13単位 ② 11単位	720時間
必修学科	農業経営学部 いちご学科（2年）				
選択推奨学科					
授業のねらい					
県内の先進的経営体（とちぎ農業マイスター等）に派遣し、実践的な経営、技術、農家生活等を幅広く学ぶとともに、就農準備活動（農地や施設等の取得、人的ネットワークの形成等）を行う。					
授業計画					
現地実習受入農家の栽培計画、作業計画に基づき、いちご経営に関する総合的な実習を行う。併せて、現地実習受入農家とのコミュニケーションを通じていちご経営に係る実践的なスキルを醸成するための調査を実施する。					
1 現地実習①					
(1) 実 習					
ア. いちごの栽培管理実習：親株管理、育苗管理、土壌管理、本ぼ管理					
イ. 栽培施設等の保守管理実習：ハウスの保守及び修繕、農業機械の保守、他					
(2) 調 査					
ア. 生産戦略(作型体型、作業体系、防除体系、他)					
イ. 販売戦略(販売先と出荷規格、商品構成、品づくり、他)					
ウ. 施設装備・農業機械の活用術(施設の構造、配置、機械の能力、種類、自身の営農計画における必要性、他)					
エ. 各種作業の効率化に関するノウハウ					
オ. 生育診断、病虫害予察等に関するテクニックと栽培管理への反映方法					
カ. 具体的な温室内環境管理法（気温、地温、CO <sub>2</sub> 、湿度、光強度、他）					
キ. 雇用管理方法(人材確保・育成、パート従業員の業務及びシフト体制、コミュニケーション、他)					
ク. 各栽培ステージにおける日々の労務時間と各種作業の割り振り等					
ケ. その他自身の能力向上、営農計画策定に必要な事項					
2 現地実習②					
(1) 実 習					
ア. いちごの栽培管理実習：本ぼ管理、収穫・選別調整					
イ. 栽培施設等の保守管理実習：ハウスの保守及び修繕、農業機械の保守、他					
(2) 調 査					
現地実習①に同じ					
テキスト					
参考文献					
評価方法	出席状況、作業精度、実習日誌、実習報告書、実習態度等				

教 科 目 名		教 科 目 担 当 者	授 業 方 法	単 位 数	履 修 時 間
農 業 経 営 者 入 門		外 部 講 師 農 業 大 学 校 職 員 他	講 義	8 単 位	1 2 0 時 間
必 修 学 科	農 業 経 営 学 部 い ち ご 学 科 ( 1 年 )				
選 択 推 奨 学 科					
授 業 の ね ら い					
農 業 経 営 に 必 要 な 基 礎 知 識 を 幅 広 く 学 ぶ。					
授 業 計 画					
とちぎ農業未来塾就農準備基礎研修におけるカリキュラムを基本とした授業を実施する。					
栃木県の農業と現状 農業の法律 野菜栽培の基本 水稻栽培の基本 病虫害防除の基本 加工用野菜 直売所向け野菜 農業気象 農業災害対策 GAP(農業生産工程管理) 花き栽培の基本 スマート農業 果樹栽培の基本 鳥獣害対策 農業の6次産業化 農産物販売戦略 土壌肥料の基本 農業所得の税務 園芸施設 農業簿記と資金計画 その他いちご経営に必要な知識					
テキスト					
参考文献					
評価方法	出席状況等				

教科目名		教科目担当者	授業方法	単位数	履修時間
いちごビジネス特論①		非常勤講師 鈴木 和典	講 義	2 単位	3 0 時間
必修学科	農業経営学部 いちご学科（1 年）				
選択推奨学科					
授業のねらい					
農業経営に必要な簿記及び決算までの会計に関する知識を習得し、農業簿記の基本原則を理解することで、農業経営改善に生かす。					
授業計画					
以下の内容について講義・演習を実施し、農業簿記会計の実務について学習する。					
1 農業会計（5）決算整理 （1）農業生産の特質① 決算整理 （2）農業会計の特質② 帳簿決算					
2 複式農業簿記（6）財務諸表 ① 損益計算書 ② 貸借対照表 ③ 損益計算書と貸借対照表の関係					
（1）簿記の基本 ① 資産、負債、資本と貸借対照表 ② 費用・収益と損益計算書					
（2）勘定科目と元帳 ① 勘定と勘定科目 ② 勘定口座と元帳					
（7）農業簿記会計ソフト演習 ① 基本情報の設定、勘定科目残高登録 ② 取引内容（仕訳）の入力 ③ 決算書、確定申告書、消費税申告書					
（3）取引 取引の二重性と貸借平均の原理					
（4）仕訳と転記 ① 仕訳と仕訳帳記入 ② 元帳への転記 ③ 試算表の作成					
テキスト	複式農業簿記実践テキスト（全国農業会議所版）				
参考文献					
評価方法	出席状況				

教 科 目 名		教 科 目 担 当 者	授 業 方 法	単 位 数	履 修 時 間
いちごビジネス特論②		非 常 勤 講 師 中 村   哲 也	講   義	2 単 位	3 0 時 間
必   修   学   科	農業経営学部   いちご学科（2年）				
選 択 推 奨 学 科					
授業のねらい					
農業経営に必要な経営戦略論を学び、事業を成長させていくための戦略を立案していく能力、実行する実務能力を身につける。					
授   業   計   画					
講義は、1日2課題ずつ8週で進める。前半4週は農業経営学を中心に学ぶ。後半4週はイチゴのビジネスを中心に学ぶ。					
1. 経営戦略論の意義 2. 経営戦略の効果 3. 食と農業の関連づけ 4. 経営とブランド戦略 5. 農業と地域ブランドの構築 6. 世界と日本の農業経営 7. I T 化と農業経営 8. 農業経営者に必要な資質 9. 西洋イチゴの伝来と品種改良の歴史 10. 日本の高度成長とイチゴの生産動向 11. イチゴのマーケティングチャネルと品種地域別に見た市場・消費動向 12. オランダ太陽光型植物工場によるイチゴ栽培とEUの消費動向 13. 韓国・アメリカ・オーストラリアイチゴのアジア向け輸出 14. 栃木県及び日本産地のアジア向け輸出 15. イチゴの6次産業化と観光農業 16. 近未来イチゴ栽培：スマート農業とイチゴ					
テキスト	特になし				
参考文献					
評価方法	定期試験もしくはレポート				

教科目名		教科目担当者	授業方法	単位数	履修時間
先進的経営体実習		先進的経営体 農業大学校職員	実 習	6 単位	1 8 0 時間
必 修 学 科	農業経営学部 いちご学科（1 年）				
選 択 推 奨 学 科					
授業のねらい					
県内の先進農家に派遣し、いちごの主な栽培管理や農家生活について学ぶ。					
授 業 計 画					
1．実 習 先進的経営体実習受入農家の栽培計画、作業計画に基づき、主に以下の実習を行う。  （1）夏季実習（9 月上旬～9 月下旬の10日間） ア 育苗管理      イ 定植とその後の管理 （2）冬季実習（2 月中旬～3 月中旬の10日間） ア 収穫・選別      イ 本ば管理      ウ 親株管理					
2．調 査 受入農家とのコミュニケーションを通じて、主に以下ことについて調査を行う。 （1）受入農家の栽培体系と経営戦略 （2）育苗期、定植期にける栽培管理のポイントと具体的な作業方法 （3）収穫・選別作業時のポイントと具体的な作業方法 （4）日々の労務時間と各種作業の割り振り、従業員間での役割分担 （5）その他自身の能力向上、営農計画策定に必要な事項					
テキスト					
参考文献					
評価方法	出席状況、実習態度、作業の精度、実習日誌、実習報告書等				



教科目名		教科目担当者	授業方法	単位数	履修時間
いちご経営実践論		先進的経営体 農業大学校職員	講 義	2 単位	3 0 時間
必修学科	農業経営学部 いちご学科（1 年）				
選択推奨学科					
授業のねらい					
県内トップレベルのいちご経営者を訪問し、経営理念と経営目標を実現するための取り組みを聞き取り、経営者としての意識醸成を図る。					
授業計画					
モデル的経営の事例調査及び振り返り 1 事例調査の内容 （1）調査項目 ア 経営概要 イ 経営目標とそれに対する主な取り組み ウ 質問事項 エ 所感 （2）聞き取った事例に関する振り返り  2 調査箇所 7箇所程度					
テキスト					
参考文献					
評価方法	出席状況、受講態度、レポート（理解度、解析度、考察力）等				

教科目名		教科目担当者	授業方法	単位数	履修時間
いちごゼミ		非常勤講師 石原 良行 伊村 務 いちご研究所職員 関係機関・団体他	演 習	9 単位	2 7 0 時間
必修学科	農業経営学部 いちご学科（2年）				
選択推奨学科					
授業のねらい					
いちご経営者として必要な知識・技術について、テーマを設定しながらゼミ形式により課題解決学習に取り組むとともに、現地実習の振り返りやいちご研究所をはじめとした関係機関と連携を通じて、将来の営農設計策定に資する知識を習得する。					
授 業 計 画					
1 いちごの栽培技術に関する課題解決 （1）いちごの生理生態（応用編） （2）いちごの生育診断 （3）IPM （4）植物栄養と施肥 （5）県オリジナル品種に対応した栽培管理 （6）各栽培管理時期における現地実習の振り返り （7）就農時の栽培体型及び作業計画策定（いちご年産） （8）就農時の病虫害防除計画策定（いちご年産） （9）いちごの試験研究他、現地事例視察					
2 商品の品質管理及び作業の安全・安心に関する課題解決 （1）GAP （2）機械・施設の保守管理					
テキスト					
参考文献					
評価方法	出席状況、ディスカッション(積極性、理解度、考察力)、プレゼンテーション・レポート(理解度、解析力、考察力)				

教 科 目 名		教 科 目 担 当 者	授 業 方 法	単 位 数	履 修 時 間
経 営 事 例 研 究		外 部 講 師 農 業 大 学 校 職 員	演 習	1 単 位	3 0 時 間
必 修 学 科	農 業 経 営 学 部    い ち ご 学 科    （ 1 年 ）				
選 択 推 奨 学 科					
授 業 の ね ら い					
新規就農事例や法人経営事例、青果物流通などに関する調査を行い、就農計画作成の参考とする。					
授 業 計 画					
主な研究内容					
1    新規参入者の経営事例調査 <ul style="list-style-type: none"><li>・ 就農計画作成</li><li>・ 農地の取得</li><li>・ ハウス施設の取得</li><li>・ 資金確保</li><li>・ 栽培方法</li><li>・ 経営状況    等</li></ul>					
2    法人経営事例調査 <ul style="list-style-type: none"><li>・ 栽培方法</li><li>・ 雇用活用</li><li>・ 経営状況    等</li></ul>					
3    就農促進シンポジウム					
4    雇用就農研修会					
テキスト					
参考文献					
評価方法	出席状況、受講態度、レポート（事例に対する理解度、解析度、考察力）等				

教科目名		教科目担当者	授業方法	単位数	履修時間
就農準備演習		外部講師 農業大学校職員	演 習	1 年生 1 単位	3 0 時間
				2 年生 4 単位	1 2 0 時間
必修学科	農業経営学部 いちご学科（１・２年）				
選択推奨学科					
授業のねらい					
就農計画を含む事業計画の概念を理解するとともに、必要な情報及び資料の収集等により自身の経営に必要な就農計画を作成する。					
授業計画					
就農計画及び目標達成に向けた具体的な取組を学生自らが作成し、プレゼンテーション及び意見交換を行う。					
1 1 年次					
(1) 認定新規就農者制度について					
ア 農業経営基盤強化促進法      イ 認定新規就者に関する申請方法					
ウ 青年等就農計画の作成手順					
(2) 認定新規就農者に係る各種支援策について					
ア 就農準備資金、経営開始資金、経営発展事業について					
イ 青年等就農資金について					
(3) 農業経営に関する税務の基礎について					
(4) 農業経営者向けセーフティーネット制度について					
2 2 年次					
(1) 経営目標の設定及び達成に向けた課題の整理					
ア 初期投資額及び運転資金の算定と資金調達の方法					
イ 機械・施設等の導入に係る規模や種類の検討					
(2) 営農計画の作成					
ア 地域農業の現状把握					
イ 経営目標、経営理念、目標達成に向けた課題と対策の整理					
ウ ほ場利用計画及び施設・機械等導入計画の作成					
エ 就農後 5 カ年間の経営収支計画の作成					
ウ 就農計画のプレゼンテーションと総合検討					
(3) 農地の確保及び各種支援制度活用等に係る申請準備(県農政部、市町、農業団体等への相談活動と申請書の作成)					
(4) 現地実習の振り返り等による経営及び雇用事例調査					
(5) 就農後に必要なスキル（ハウス建て方等）の演習					
テキスト					
参考文献					
評価方法	出席状況、授業態度、営農計画、就農準備活動状況				

教科目名		教科目担当者	授業方法	単位数	履修時間
リーダーシップ論		非常勤講師 関 悟	講 義	1 単位	1 5 時間
必 修 学 科	農業経営学部 いちご学科（1 年）				
選 択 推 奨 学 科					
授業のねらい					
農業経営者として自立するために必要な基本的知識や素養を学ぶ。					
授 業 計 画					
1 入学の動機を改めて振り返る					
2 農業経営とリーダーシップ					
3 組織マネジメント					
4 経営理念検討					
5 グループワーク					
6 プレゼンテーション					
テキスト					
参考文献					
評価方法	小テスト等				

教科目名		教科目担当者	授業方法	単位数	履修時間
人材マネジメント		非常勤講師 池田 功	講 義	1 単位	1 5 時間
必修学科	農業経営学部 いちご学科（1，2年）				
選択推奨学科					
授業のねらい					
<p>時代や世代が変わっても、人材を活用しモチベーションを高めながら生産性や利益を上げて経営体を持続的に維持していくことは、普遍的な役割で重要で、更に困難である。</p> <p>SNSがまん延している時代だからこそ、社会的信用の観点から法令遵守は重要で、適切なマネジメントが必要だが、いつしか利益主義にとらわれてしまうのが経営者の実情である。</p> <p>本講義では、人を雇用することの難しさや経営者の責任について知り、労働関係法規や経営者としての労務管理の方法を学び、いかに人を動かすかを学ぶ。</p> <p>採用から始まり、人が定着し、農業経営戦略上の労働力になるためには、組織として経営者として必要なことは何か、経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報）の中で、なぜ“ヒト”が一番最初なのか、理解を深める。</p>					
授 業 計 画					
<p>1 人を雇用すること（経営者としての心構え）</p> <p>イントロダクション(人とは？組織とは？経営戦略とは)、農業における経営課題の理解、組織のあり方、経営者としての心構え、採用から定着に至るまでに必要なこと、リーダーの役割を体系図から理解する</p> <p>2 農業労務管理の基礎知識と労働関係法令上のポイント①</p> <p>農業経営における働き方改革を中心に、働きやすさとは何かを理解してもらい、体系図の中の採用管理を中心に学ぶ。</p> <p>3 農業労務管理の基礎知識と労働関係法令上のポイント②</p> <p>労働条件や就業規則の意味合いを知り、法定帳簿を中心に経営者が備えなければならない書類について学ぶ、また、日本における労働保険や社会保険制度、最近の農業者が重要視している退職金制度について知る。</p> <p>4 農業の特殊性を考慮した人材活用</p> <p>一般的な産業と農業の雇用の観点はかなり違う、執念雇用ばかりを重要視するのではなく、農繁期と農閑期における必要かつ適正な雇用とは何かを学ぶ。外国人材(技能実習制度、特定技能制度、育成就労制度)女性パート、有期雇用契約、ダブルワーカー、スポットワーカーについて知ってもらう。</p> <p>5 1年次における総まとめと雇用トラブル事例、経営理念作成</p> <p>第1～4回目において学んだことを整理する意味でも総復習し、農業における雇用トラブル事例とその解決について学ぶ。また、経営理念作成についても学ぶ。</p> <p>6 就業規則等、労働条件通知書等の作成(演習)</p> <p>講師が用意したひな形をもとに、就業規則や労働条件通知書等の作成のポイントを学び、実際に作成する。</p> <p>7 労働時間の集計と給料計算業務(演習)</p> <p>知識不足のまま給料計算業務を行うと、未払い賃金や年次有給休暇の管理不足に繋がる。適正な給料計算業務、保険料や住民税のことを知る。</p> <p>8 キャリア形成とハラスメント</p> <p>人事制度と評価制度を知り、労働者にモチベーション高く働いてもらうためには何かを知る。特に世代や職責によって、評価のポイントに若干ズレがあることを知る。厚生労働所に寄せられた労働相談のうち、いじめ・嫌がらせは12年連続トップである。主にハラスメントから派生されているため、ハラスメントとは何か？を理解してもらう。</p>					
テキスト					
参考文献					
評価方法	レポート等				

教 科 目 名		教 科 目 担 当 者	授 業 方 法	単 位 数	履 修 時 間
地 域 ・ 農 村 の 活 性 化		非 常 勤 講 師 神 代   英 明	講   義	1 単 位	1   5   時 間
必   修   学   科	いちご学科（2 年）				
選 択 推 奨 学 科					
授 業 の ね ら い					
本授業では、卒業後に農家として地域に入った際に、地域のしくみを理解し、周囲とうまく関わりながら働いていく力を身につける。家族経営や地域の共同作業、 JAなどの組織とのつながり方も学び、将来、地域の農業を支える人材として成長するための基礎をつくる。					
授					

教 科 目 名		教 科 目 担 当 者	授 業 方 法	単 位 数	履 修 時 間
産地調査		県内各いちご産地 農業大学校職員	実 習	1 単位	3 0 時間
必 修 学 科	農業経営学部 いちご学科（1 年）				
選 択 推 奨 学 科					
授業のねらい					
県内におけるいちご産地の取組を把握し、就農計画策定の資とするとともに、産地の農業者と交流を図り、円滑な就農に結びつける。					
授 業 計 画					
県内いちご産地に赴き、地域の取組や現状を調査する。					
1 いちご生産組織、農業協同組合などの取組					
2 いちご集出荷施設の視察					
3 産地・地域との交流					
テキスト					
参考文献					
評価方法	レポート（事例の理解度、考察力）等				



教科目名		教科目担当者	授業方法	単位数	履修時間
企業実習		県内企業 農業大学校職員	実 習	1 単位	3 0 時間
必 修 学 科	農業経営学科 いちご学科（1 年）				
選 択 推 奨 学 科					
授業のねらい					
いちごの流通・販売に関する業務体験を通じて、卒業後のいちご経営に向けた自らの経営のあり方を考える。					
授 業 計 画					
小売店における青果物販売に関する一連の業務を体験する。					
テキスト					
参考文献					
評価方法	出席状況、実習日誌、実習報告、実習態度等				